

# 空手古書道連盟

## Karate-Koshodo Renmei

### 2003年のページ・目次

1999年のページ	2000年のページ	2001年のページ	2002年のページ
2004年のページ			

古書にまつわるエピソードなどを不定期に掲載しています、お楽しみに。

<a href="#">1)スーパーマンになる近道</a>	<a href="#">2)沖縄剛柔流 空手の型</a>	<a href="#">3)JK FAN</a>	<a href="#">4)空手道入門</a>
<a href="#">5)チャンピオン太</a>	<a href="#">6)梶原一騎17回忌</a>	<a href="#">7)空手道新教程形シリーズ</a>	<a href="#">8)現代カラテマガジン第5回大会特集号</a>
<a href="#">9)レスリング入門 石黒敬七著</a>	<a href="#">10)2002年総括</a>	<a href="#">11)護身道</a>	<a href="#">12)北朝鮮版 力道山物語</a>
<a href="#">13)空手史</a>	<a href="#">14)プログラム シュートボクシング</a>	<a href="#">15)ヌンチャク 基本型</a>	<a href="#">16)台本 すてごろZANGE</a>
<a href="#">17)ビデオ極真(緑代表)第22回全日本空手道選手権大会</a>	<a href="#">18)空手道教範 富名腰義珍著 大倉廣文堂 昭和10年</a>	<a href="#">19)「これが空手だ 聖拳・佐藤勝昭」</a>	<a href="#">20)俺がやっちゃん 大西やすと著</a>
<a href="#">21)ビッグマガジン</a>	<a href="#">22)三分間護身術</a>	<a href="#">23)ビデオ 術から道へ</a>	<a href="#">24)ボクシング戦国時代</a>
<a href="#">25)故 大西靖人氏を偲ぶ会</a>	<a href="#">26)空手道拳道会 総師 中村日出夫先生</a>	<a href="#">27)海外けんか列伝</a>	<a href="#">28)わが道をゆく 八田一郎著</a>
<a href="#">29)空手大鑑</a>	<a href="#">30)青い海「沖縄の空手道と拳豪列伝」</a>	<a href="#">31)ザ・格闘技</a>	<a href="#">32)大沢昇特集</a>
<a href="#">33)空手世界を翔る</a>	<a href="#">34)映画プログラム 力闘空手打ち</a>	<a href="#">35)Coralway「特集・空手王国」 2000年10-12月号 J T A</a>	<a href="#">36)大日本武徳會設立主旨及規則</a>
<a href="#">37)武徳 大日本武徳会</a>	<a href="#">38)金城裕「唐手大鑑」出版記念パーティー</a>	<a href="#">39)日本武道辞典</a>	<a href="#">40)初段</a>
<a href="#">41)八光流 昭和40年9月号</a>	<a href="#">42)心技体 八光流宗家・奥山龍峰の世界</a>	<a href="#">43)厳誠流空手道厳誠塾</a>	<a href="#">44)琉球の唐手物語</a>
<a href="#">45)太気拳の教え 岩間統正著</a>	<a href="#">46)黒帯大鑑 新極真会</a>	<a href="#">47)空手道禅道会 5周年記念パーティー</a>	
		<a href="#">「無意識」の教育 小澤隆著</a>	

[このページのTopにもどる](#)

<p>1)スーパーマンになる近道 滑川道夫・柳内達雄監修 学研 昭和33年</p>	 	<p>なんと凄たいタイトルの本である。表紙のインパクトも抜群だ。映画やコミックで知られているあのスーパーマンになるとうという一冊だ。空手古書道連盟としては、柔道の三船久蔵と甲賀流忍者の藤田西湖に注目したわけである。項目として、「からだをつくる、ちえをつける、わざをみがく、心をゆたかに」の4項目あり、2人は「わざをみがく」の項目で紹介されている。他に若乃花、金田正一などが登場。「三年の学習」の付録誌。</p>
<p>2)沖縄剛柔流 空手の型 佐久川春範著 榕樹書林 2000円 2002年10月</p> <p><a href="#">このページのTopにもどる</a></p>		<p>沖縄剛柔流拳志会師範による著作。剛柔流拳志会の12の型を分解写真で解説。特に、「型にある秘伝・秘技の紹介と、型の中にある表の技と奥の技を展開することが著述の一端である」という。著者の師である剛柔流拳志会の外間哲弘会長は、沖縄県空手古武道資料館の館長でもあります。</p>
<p>3)「空手道マガジン JK Fan」チャンプ</p>		<p>2002年12月に新しい空手雑誌が創刊しました。全空連を対象としたものです。創刊号はスペインで行われた第16回世界空手道選手権大会が特集。大会レポートが中心の構成。発行は、伝統空手ビデオの老舗であるチャンプ。毎月23日発売。</p>
<p>4)空手道入門 小西康裕著 愛隆堂 昭和39年・49年</p>		<p>左が昭和39年版で、右が49年版。表紙と巻頭4ページの写真のみ改定されている。著者の3冊目になる空手技術書。本文にイラスト図解入り。空手とは何か、空手術・攻防の基礎、身体各部の鍛練法、空手の基本わざ、空手・形の修練、形の研究、組手。</p>
		<p>梶原一騎の劇画原作デビュー作。4月頃に漫画がBOXセットでふゅーじょんぷるだくとより1500セット限定発売される。6000円。待望の初単行本化。昭和37年に「少</p>

5)チャンピオン太 梶原一騎・吉田  
竜夫



[このページのTopにもどる](#)

年マガジン」で連載開始。講談社(全3巻)ときんらん社(全8巻)から貸し本漫画として作られて、入手困難であった。当時(1962年)、力道山やアントニオ猪木も出演したテレビドラマにもなった。2年前にCSテレビのファミリー劇場で全話放送された。ビデオは、セブンエイトより3話収録のものが発売されている。3800円。あとは、DVD-BOXが発売されるのが期待される。

(追)発行元のふゅーじょんぶろだくとによると、発売が夏に延期となりました。

6)梶原一騎17回忌



劇画原作者の梶原一騎の17回忌法要が1月18日に東京・護国寺にて行われました。高森敦子未亡人をはじめ、実弟の真樹日佐夫、高森日佐志と関係者参列の上、行われました。今回は、一般ファンも参加可能で、熱心なファンが多数参加していました。夕方には、赤坂プリンスホテルにて「梶原一騎を偲ぶ宴」がありました。空手4団体(真樹道場、土道館、白蓮会館、極真会館・緑代表)演武から始まり、ちばてつやによる献杯、梶原一騎の孫達によるダンシング、今年に公開される「新空手バカー代 格闘者」、「梶原三兄弟昭和激動史 素手喧嘩」のプロモーション上映がありました。「素手喧嘩」で梶原一騎役の奥田英二、真樹日佐夫役の哀川翔の挨拶もありました。芸能関係では、桜木健一、清水健太郎、力也、田代まさしなどが来場。格闘技関係では、添野義三、極真・緑代表の師範達、鈴木国博、沢村忠、坂口征二、佐山聡、船木誠勝、小林聡、金沢久幸など。漫画家では、ちばてつや、川崎のぼる、矢口高雄、水島新司、永井豪、原田久信仁など。司会は、徳光和男。帰りには、梶原一騎特製マフラーが一人ずつ渡されました。又、今回の模様は、ホームページ「一騎に読め！」でもレポート報告されています。

7)空手道新教程形シリーズ1 鉄騎  
初段・平安初段 中山正敏監修 日本空手  
協会出版局 昭和44年  
空手道新教程形シリーズ2 平安二  
段・平安三段 中山正敏監修 日本空手協  
会出版  
局 昭和44年



写真と運足図による空手形の解説書。真上からの写真もあり運足は分かりやすい構成。中山門下生だった三島由紀夫の推薦文も載っている。のち、鶴書房から出版されて流通することになる。

8)現代カラテマガジン 第5回大  
会特集号

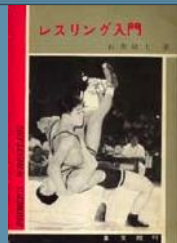


昭和48年12月号 現代カラテマガジ  
ン社

[このページのTopにもどる](#)

昨年の12月13日、東京・新宿で「武格連忘年会2002」がありました。武格連とは、武道・格闘技版元連絡会議の略称で、武道・格闘技の出版社11社からなる組織。今回は、ゲストとして極真館の盧山初雄師範、国際意拳会の孫立会長、自成道の時津賢児先生が来ました。時津先生は、この日にイタリアから成田空港に着き、かけつけて来ました。3人は、太気拳・意拳の共通武術があり、初対面で盛り上がっていました。3人に修己会の倉本成春師範も参加しての座談会を雑誌上でやりましょうと約束していました。盧山師範には「現代カラテマガジン 第5回大会特集号」にサインをいただきました。本人は、この特集号は持っていないとのこと。もちろん、この特集号にサインするのも初めて。表紙になっている写真について、中村日出夫先生が「顔に力が入り過ぎている。」と言われたとのこと。

9)レスリング入門 石黒敬七著



集文館 昭和39年

蒐集家・評論家・柔道五段でもある石黒敬七の著作。石黒敬七は、明治30年生まれ、世界的ユーモリストとして有名で、故郷の新潟県柏崎市に「とんちん館」という記念館がある。1974年没。柔道、空手、護身術の著書も多々あるが、レスリングまで出していたとは驚きである。ちょうど、東京オリンピックの時に発売。いわゆる入門書で基礎や技術を簡素なイラスト入りで紹介。試合の説明、用語解説付き。

10)2002年総括



[このページのTopにもどる](#)

2002年も毎日のように古書店をまわり、多くの空手書と出会いました。入手した空手古書として「写真で覚える空手術入門、空手道一路(昭和31年初版)、日本の武道・柔術、闘いの中で・44人のスポーツマインド、詩集・空手富士、空手護身術、柔道一路・徳三宝、君影草(江上茂)、柔道句集、空手自由組手、沖縄の古武道具・鍛練道具、沖縄空手道連盟創立十周年記念誌、空手における転の教え、真拳に生きる空手びとたち、レスリング入門、楽しく身につく護身術、平安初段・鉄騎初段、平安二段・平安三段」などです。新刊書としては、「武道空手への招待、我が空手人生、武術空手の知と実践、追悼・上野貴天心、太陽の使者・鈴木浩平物語、Karate Kyohon、KARATETechnic&Spirite、The history of Jon Bluming、サムライの拳、極真英雄列伝、はみだし空手から空道へ、驚異の意念パワー発力、驚異の意念パワー站椿、空手のタマゴ2、沖縄剛柔流空手の型、拳法概説、徒手空拳・人間保勇、空手道教範(研修会)、空手と意拳、世界一強い女。、男達も熱く生きる！」など。他にビデオ、DVD、グッズも多々入手しました。又、空手大会に行き、多くの空手家と出会いました。出かけたのは「宇城憲治講演会、金澤弘和出版パーティー、田中光四郎出版パーティー、佐藤塾全日本、梶原一騎杯MAキック、大道塾THE WARS、日本空手松涛会全日本、一撃、常心門全日本、極真(松井館長)全日本、舟木昭太郎パーティー、北斗旗全日本、拳道会全日本、跡道全日本、極真(緑代表)全日本、研修会全日本、極真連合会全日本、全空連全日本」など。又、秋には7年ぶりとなる「空手古書展覧会2002」を開催しました。そして、来年は空手古書道連盟創立10周年となります。これに合わせて、もろもろ仕掛けを準備していますので、ご期待ください。

11)護身道 城野宏著 竹井出版 昭  
和58年



楽しく身につく護身術 遠藤英夫著  
啓明書房 1998年

独特の構えに特徴がある護身道の2冊。護身道とは、城野宏氏の創始の力学による脳力開発の武道。鍵手の構えに護身道の技の根本があるという。「護身道」は、実際の護身術が中心の内容で、「楽しく身につく護身術」は、護身道の理念と基本技術を解説。日本護身道協会として活動している。

12)北朝鮮版 力道山物語 キム・テグオン著 柏書房 2003年3月 950円



力道山没後40周年記念出版として発行された。北朝鮮で発行された力道山マンガの翻訳本。外交で何かと話題の北朝鮮であるが、このマンガでも金日成、金正日への崇拜ぶりが描かれている。マンガそのものが北朝鮮的であり最高のサブカルチャー本である。木村政彦、遠藤幸吉の柔道家はほんの一度でてくるが、大山倍達、中村日出夫の空手家は登場せず。大山倍達がモデルになっている「大野望」(2002年に当HPで紹介)、  
「風の戦士」も翻訳発売が待望される。

13)空手史 大西栄三著 龍書房 平成11年 箱付B5上製版



拳道学の創始者による空手研究書。拳道学は、遠山寛賢、許田重発、知花朝信に学んだ著者が、空手を学問、文化として研究して、体系化させた空手である。組手・試合は、防具を採用。題名通り、空手の流れを中国武術、琉球の手、空手、そして現代の空手に至るまでの学問的見地からまとめている。「第一章 中琉関係と拳、第二章 拳の伝来、第三章 手の形成、第四章 唐手・空手の普及と社会、第五章 文化創造への志向、第六章 拳道学」全251ページ。写真入りで型の解説が第三章にある。第四章で基本技、第六章で拳道学の独自技を紹介。著者による本として「拳道学」、「拳道学大要」、「拳道学入門」などがある。

14)プログラム シュートボクシング ファーストマッチ シュートボクシングのすべて



1985年9月1日、後樂園ホールで行われた「シュートボクシング ファーストマッチ」の記念プログラム。メインマッチは、シーザー武志VS力忠勝。ちょうど佐山サトルのシューティングができて、前田日明がUWFを旗揚げしたりと格闘技ブームの中でシュートボクシングは創設された。又、格闘技雑誌も次々と創刊された頃とも重なる。  
「シュートボクシングのすべて」は、シーザー武志インタビュー、86年末までの興業記録、選手名鑑、ジム紹介の小冊子。全18ページ。

15)ヌンチャク 基本型 坂上隆祥



空手衣ブランドの東海堂が発行した教則書。ヌンチャクの基本型を写真と運足図で紹介。英語対応。全13ページ。古武道シリーズの教則書として、2.サイ、3.トンファがある。

東海堂 昭和43年

16)台本 すてごろZANGE



先の「梶原一騎17回忌」でも紹介した、映画「すてごろZANGE」の台本(シナリオ)。現場スタッフや役者が使うものである。役者のセリフとナレーション、場面設定が書かれている。梶原三兄弟を始め、大山倍達、黒崎健時、芦原英幸、添野義二の極真空手家、力道山、猪木、馬場のプロレスラーも登場する。大山倍達役は、真樹日佐夫が演じる。原作は「すてごろ懺悔」真樹日佐夫著であるが、梶原一騎遺作の「男の星座」とも重なる。神田神保町で入手。

真樹日佐夫 平成14年

[このページのTopにもどる](#)

(追)映画「すてごろ 梶原三兄弟激動昭和史」が6月14日から新宿東映パラス3で公開されます。又、ビデオ・DVDがジーピーミュージアムより8月発売予定。

17)ビデオ極真(緑代表)第32回全日本空手道選手権大会 極真会館



2000年12月に行われた極真(緑代表)の全日本大会ビデオ。もともと塚本徳臣の優勝で「塚本徳臣 栄光の軌跡」というタイトルであったが、「第22回全日本空手道選手権大会」というタイトル変更された。ビデオジャケットは、全面作り替えられたが、中味は同じ映像。ドーピング検査の結果により優勝者が準優勝であった鈴木国博に変更された異例の極真大会。

18)空手道教範 富名腰義珍著 大倉廣文堂 昭和10年



68年前に発行された初版本。富名腰義珍の3冊目の著作。琉球唐手を空手として本土に伝え、日本で空手が普及してきた状況時に作られた一冊。空手技術書の原点であり、基礎から型、約束組手、護身術と写真入りで紹介。「昭和十年七月十九日 天皇陛下へ献上済」の印あり。平成になってからも復刻され続けている名著である。

[このページのTopにもどる](#)

ビデオ・DVD

19)「これが空手だ 聖拳・佐藤勝昭」



極真空手第1回世界チャンピオンで、現在、佐藤塾総師の佐藤勝昭の最新ビデオ・DVD作品。佐藤塾塾生による全体練習、佐藤勝昭直伝の基本稽古・実戦練習、佐藤塾独特の蹴り技伝授、ポイント&KO名場面集、試し割り10種、佐藤勝昭の得意型・征遠鎮演武を収録。38分、7800円。廃盤になっているビデオ「王道の空手」シリーズのDVD復刻も望まれる。

王道空手佐藤塾 2003年4月

[このページのTopにもどる](#)

20)俺がやっちゃう 大西やすと著



極真空手の第15回全日本大会チャンピオンの大西靖人の半自伝。平成3年から大阪・岸和田市議会議員となり、その際の後援者に配る目的で書かれたもの。喧嘩話、極真空手との出会い、大会、政治家をめざしてなど。太気拳、聖眷会、全日本格闘技選手権大会のことにふれておらず残念である。2001年12月に大西氏に面会して著書にサインを入れて頂きました。(写真の上は著書にサインをする大西氏)この著書には初めてサインしたとのこと。又、色紙にもサインをいただきました。これで歴代の極真世界・日本チャンピオンのサイン色紙が全て揃いました。その大西靖人氏が1月22日に逝去されました。享年45歳。慎んでご冥福をお祈り致します。

第三通信社 1995年10月

21)ビッグマガジン

キックボクシングとプロレス 秋田書店  
昭和46年



ビッグマガジン 「まんが王」1972年3月号のふるく。キックの沢村、プロレスの馬場を中心に、当時活躍していた選手達を紹介。キックとプロレスでちょうど半々に構成されている。全70ページ。

22)三分間護身術 島津巨著 日本文  
華社 昭和46年

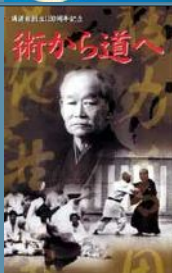
[このページのTopにもどる](#)



護身にまつわるよもや話し集。項目として、「機転と勇気の記録、男が一步外へ出れば・・・、あなたも狙われている！、痴漢KO作戦、女傑、豪傑列伝、ケンカ心得帳、トレーニングのすすめ、三分間護身術」。内容は、犯罪にまつわるエッセイ、簡単な護身技紹介など。

ところどころに、武道や格闘技のくだりもでてる。豪傑列伝のくだりでは、沢村忠、大山倍達、梶原一騎などがでてくる。それにしても、すごい表紙である。

23)ビデオ 術から道へ 講道館



講道館創立120周年記念作。柔道の歴史と概要をまとめたビデオ。戦後初の海外使節団派遣、第1回世界選手権、東京オリンピック、プーチン大統領講道館訪問、加納治五郎師範演じる古式の形、指導風景、永川丸で帰国の途につく加納治五郎最後の映像など貴重映像を収録。33分。

24)ボクシング戦国時代 ビル・ス  
ターン、宇田道夫、石川輝編著 論争社  
1961年

[このページのTopにもどる](#)



アメリカのボクサー達の武勇伝。1920年、30年代の実話集。石川輝氏の署名入り。この年代の本によくあるが、表紙のインパクト大。

25)故 大西靖人氏を偲ぶ会



当ホームページで先行告知した極真空手の故大西靖人氏の偲ぶ会が6月8日(日)に行われました。この日は、極真会館(松井館長)の第20回全日本ウェイト制大会があり、大会終了後に大坂・南海サウスタワーホテルにて行われました。二部制で、一部は極真の全支部長、二部は関係者と一般者参列で行われました。会場には大西氏の写真と故人が好んでいた「俄」という字が花で作られました。又、生前の写真がパネルで会場後方に飾られました。大西氏が大会で活躍しているビデオモニターも流されました。

一部では松井館長、二部では山田雅俊支部長と中村誠支部長の挨拶がありました。山田支部長の話で、盧山初雄師範の自宅に大西氏と訪問した時のことで、第5回大会で優勝した時のトロフィーの一つが手違いで第15回となっており、それを大西氏に贈呈したら、後年に本人が本当に第15回大会で優勝してしまった不思議な因縁話をされました。中村支部長の話しは、大西氏と酔って相撲をした話や警備会社で弟子がお世話になった話などをされました。偲ぶ会にあたり、大西氏の足跡をまとめた二つ折りのパンフレット(写真参照)が配られました。(oさん、大変ご苦労様でした。)

26)空手道拳道会 総師 中村日  
出夫先生

生誕90周年記念祝賀会

[このページのTopにもどる](#)



2003年6月15日(日)に東京・椿山荘にて「空手道拳道会 総師 中村日出夫 生誕90周年記念祝賀会」が行われました。会場に向かう途中の学習院前で天皇陛下を拝見し、良き日を感じました。お弟子さんを中心に多数の方が参加した盛大なものでした。中村日出夫先生の入場にはじまり、中村先生のこれまでの足跡をまとめたビデオモニターが流され、拳道会拳士による演武が行われました。歓談の合間に、中村先生夫妻に記念品贈呈、極真会館の松井館長の挨拶、拳道会門下生のシンガーソングによる熱唱などがありました。皆にお酒をすすめられて、中村先生は顔を赤らめていました。最後に、中村先生の御礼の挨拶があり、会場出口で参加者の一人ずつ握手でおくっていただきました。とても90歳とは思えない力強く、優しさあふれる達人の「手」でした。

この模様は[拳道会ホームページ](#)でも写真入りで報告されています。

27)ビデオ 海外ケンカ列伝

田上敬久主演 ミュージアム 2001年



正道会館で選手として活躍して、現在、勇成会館館長の田上敬久主演の異色作。田上敬久は、軽量の体格ながら正道会館全日本大会で2度にわたり準優勝、キックでもUKFチャンピオンになった空手家。まるで真樹日佐夫主演の「カラテ大戦争」を彷彿させるストーリー展開で、タイ・台湾での激闘を繰り広げる。武心道道主の間風健が全面協力・特別出演している。オリジナルビデオ作。64分。

28)わが道をゆく 八田一朗著

ベースボールマガジン社 1964年

[このページのTopにもどる](#)



日本のレスリング界に多大な影響を与えて、八田イズムとしても知られる八田一郎の半自伝、エッセイ集。東京オリンピックの影響で、その直後に発売された。東京オリンピックの回想からはじまり、著者の幼少期、学生時代、レスリングとの出会い、軍隊時代。学生時代に加納治五郎の秘書をしていた経験もある著者だが、柔道への苦言も述べている。著者のレスリングに対する愛情が伝わってくる一冊である。個人的に知りたかったのは、中国で意拳創始者の王向齋とのくだりにふれてほしかった。

29)唐手大鑑 金城裕著

出版館ブック・クラブ 2003年7月  
5500円



金城裕先生の空手に対する集大成の一冊。月刊空手道2003年8月号(6月27日発売)に特集も組まれました。根本命題である「空手とは何か?」の考察、空手の歴史の間違いを資料を基に解明した研究書でもある。内容は、序章・空手道七十有余年の随想、第一章・空手と中国拳法の歴史、第二章・練習のための基礎知識と心得、第三章・寄稿・講演集、第四章・愛憎を越えて。第二章では多くの写真を付けて技術解説している。  
予定では全3巻で完結。A5版ハードカバー・函付。尚、8月17日に東京都内のホテルで出版記念パーティーが行われます。後日、レポート予定。

30)青い海「沖縄の空手道と拳豪列伝」1978年2月号 青い海出版社

[このページのTopにもどる](#)



沖縄の郷土月刊誌の沖縄空手特集号。34ページにわたる特集記事。空手発祥の地である沖縄の雑誌で、特集が組まれるのは不思議ではない。拳聖・船越義珍、武人・宮城長順、名人・糸洲安恒、拳豪・東恩納寛量、武勇・本部朝基の5人の伝記・評論を各4ページにわたり紹介。又、松林流の長嶺将真、上地流の上地寛英、剛柔流の八木明徳、小林流の比嘉佑直と豪華人による空手との出会い、修行エッセイ、道場の現状を各2ページづつ紹介している。他に、空手道発展の時代的考察、武と舞の共通性と、充実した特集記事である。

31)ザ・格闘技 小島貞二著

朝日ソノラマ 昭和51年

[このページのTopにもどる](#)



元相撲家、演芸評論家で、プロレス・格闘技評論家でもある小島貞二氏の珍書。サブタイトルは、「最強をめざす男たちの世界」。執筆当時は、テレビで腕相撲と女相撲の解説をしていたという。この本は、専門書と違い珍しい話、変わった話に重きをおいたという。人、名勝負、記録、事件を基に、著者自身の体験、見た試合、きいた話、調査したことをまとめている。38項目にわたり、雷電が右衛門、前田光世、植芝盛平、若木竹丸、双葉山力道山vs木村政彦、キックの藤原vs西城、猪木vsアリ戦といった知られている格闘家も出てくるが、ほとんどは知られていない格闘家のことが多く書かれている。著者専門の相撲の項目が多く、空手が出てこないのは残念。そして、表紙も最強である。定価700円。小島貞二氏は160冊に及ぶ著書があるが、膨大な資料と詳細な取材を基にした労作ばかりとの定評だった。その小島貞二氏が今年6月24日に逝去されました。享年84歳。ご冥福をお祈り致します。

32)大沢昇特集

東京スポーツ 「あの人は今」 平成15年7月29日 東京スポーツ新聞社



今回は、大沢昇の特集です。先ず、スポーツ新聞で格闘技を最も詳しく報道している「東京スポーツ」にお店の紹介記事が載りました。昨年は、産経新聞でも紹介されました。今年の11月で立ち退きすることになり、別の所で継続を望むばかりである。そして、雑誌の大沢昇の関連誌4冊にサインを入れて頂きました。

[このページのTopにもどる](#)

大沢昇特集

ゴング キックボクシング大特集号 昭和46年12月 日本スポーツ出版社  
ザ・ストロング 「小よく大を制す」 昭和62年9月 笠倉出版社



ゴング誌はキック特集号が2冊でおり、キック全盛期のものです。当時は、サラリーマンをやりながらのキックボクサーで、猛練習は空手時代と変わらず。140~150キロのバーベルを補助人もつけずに持ち上げていたという。誌面で錦利弘との対談もしている。ザ・ストロングは、4号で休刊になった格闘技雑誌。この頃は、竹山晴友がキックボクサーで活躍しており大沢ジムの取材である。久しぶりに雑誌を見た大沢先生は、「昔は(自分が)いいこと言ってるねー。」としげしげと見ていました。「体が麻痺して動かなくなり、そこから練習は始まるんだ」 又、同年4月に「フルコンタクトKARATE」誌で、「阿修羅の師弟、大沢昇と竹山晴友」と題した特集もされている。

33)空手世界を翔る 八木明達著  
ブレイスポーツ社 昭和59年

[このページのTopにもどる](#)



著者は、剛柔流教士八段、明武館本部館長、沖縄剛柔流剛柔会副会長。10年に渡り、アメリカ、グアム、フィリピン、台湾、韓国、香港、南米に指導してきた状況、動向、展望を「月刊ブレイスポーツ誌」に一年連載。その連載を一冊にまとめたものである。  
後半は、剛柔流の紹介、流祖の宮城長順先生、著者の父である八木明徳明氏、明武館道場の紹介、四向鎮の型、碎破の型、一本組手は写真を多用。B5版、全53ページ。定価1000円。

34)映画プログラム 力闘空手打ち

京橋出版社 1955年

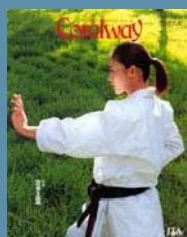


昭和30年代の東映空手映画。牧野吉晴原作の小説を映画化。映画「飛燕空手打ち」三部作の姉妹作品。この3作品は、拓殖大学創立百周年記念としてビデオ発売されました。「力闘空手打ち」は、壮烈な武道決闘に、暗黒街の謎を探るサスペンス、三人の女性が織りなす恋模様といった大衆娯楽作。主役の空手青年である沢村健二は波島進が演じている。レスラーとの異種格闘戦もあり、力道山時代にのちの猪木VSウィリー戦を予言したような映画である。ビデオ・DVD発売が東映チャンネルでの放映を望む。  
翌年(1956年)の「電光空手打ち」という映画は、高倉健の映画デビュー作である。その後、千葉真一へ東映空手映画魂が引き継がれた。

35)Coralway 「特集・空手王国」

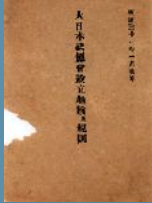
2000年10-12月号 J T A

[このページのTopにもどる](#)



日本トランスオーシャン航空機内誌。JAL系の沖縄方面の航空機(JTA)で、機内誌も沖縄の記事と情報専門。その空手特集号。14ページにわたる特集記事。美しき演武者・豊見城あずさ(表紙にもなっている。)、空手発祥の地・沖縄、沖縄空手新聞の3部構成。豊見城あずさ氏は、沖縄出身の全空連四段、沖空連四段の女性空手家。沖縄県県民大会の女子個人型で97年から3連覇。そして、空手の歴史と流派・団体の紹介。  
沖縄空手新聞では、本部御殿手の上原清吉宗家、武道具店の守礼堂、空手古武道世界大会、武器術、映画ベスト・キッドを紹介。沖縄専門店わしたショップで購入。空手と沖縄は密接な関係ゆえ、沖縄の雑誌や本も収集・研究対象になります。

36)大日本武徳會設立主旨及規則  
大日本武徳會 明治31年



何といっても105年前のものである。題目通り、大日本武徳會の案内書。明治28年に発行されたものの改定版。総則、会員、役員、常議員会、会計、寄付の章。活動として、武徳殿の設営、武徳祭の開催、武道場の設営と武道講習、資料館を建築して武具を収集、武芸史の編集、会報の発行を行う。武徳殿の略図、会員徽章、会員証の様も掲載。全12ページ。入会用紙付き。会報「武徳」平成4年秋季号にて「武道の総本山大日本武徳會の変遷」として、歴史と活動を紹介している。

37)武徳 大日本武徳會 平成3年6月  
[このページのTopにもどる](#)



大日本武徳會の会報。武徳會の大会や活動を報告する機関誌である。この号は、第29回全日本武徳祭の特集号。空手は、松下派空真流(松下匡澄宗家)、沖繩空手道金硬流(又吉真豊宗家、1997年没)が参加。会報という性質上、活動報告として本部日より、支部日より各県支部の広告は毎号載っている。別号で、会長の東伏見慈治氏の一筆書、連載記事の武医同術の記事など。号によってページ数はまちまちである。市販している武道雑誌ではあまり見かけない大日本武徳會だが、由緒ある武道組織として会報があるのは当然であろう。

38)金城裕「唐手大鑑」出版記念パーティー



8月17日に東京のホテル海洋にて、金城裕「唐手大鑑」出版記念パーティーが行われました。空手関係者、出版関係者が多く参加しました。発起人の挨拶から著者である金城裕師範の謝辞と続きました。謝辞の話は、「私の空手人生の集大成として『唐手大鑑』全3巻にまとめることになりました。今回はその上巻が出来上がりました。現在の空手は窓口が拡がり過ぎて、分からなくなっている状況です。空手の本は多く書かれているが、空手の原点にふれているものは少なく、原点を見つめる時にきています。自分の足元を見つめて、自分はどこに向かっているのかを確かめるきっかけにしてほしい。この本が空手を考えるヒントになれば幸いです。」金城師範の名刺は「空手評論家」となっている。それは、どの世界にも評論家がいるが、空手界にいないのはおかしく第一号になったとのこと。又、オープニングと途中で古今流宗家雅太鼓一門による和太鼓と獅子舞が会場を盛り上げました。帰日には参加者全員に、参加者の名前入りの署名本が渡されました。「唐手大鑑」金城裕著 出版館ブッククラブ 2003年7月発売 5500円。尚、今回の記事が「月刊空手道」2003年11月号にも掲載されています。

39)図説・日本武道事典 笹間良彦著 柏書房 2003年6月 3800円  
[このページのTopにもどる](#)



20年前に18000円で発売された同書の復刻版。価格も廉価な普及版。著者は、文学博士、日本甲冑武具歴史研究会会長。書名通りの図版800点、項目5200を網羅した辞典。武道についての歴史、技、流派、人物、武器、武具、作法、軍陳、兵法、書物を五十音順に解説。参考資料として武道基本形図集。全765ページの重い書物。ちなみに、「空手古書道」の項目は残念ながら載っていない。(笑)

40)THE SHODAN ハワード・コリンズ著  
BFD&3c consulting 2003年



THE SHODAN ハワード・コリンズ著 BFD&3c consulting 2003年  
新極真會のハワード・コリンズ師範による極真空手の新刊技術書。10級から1級、初段といった項目で空手基本技を写真入りで紹介。準備体操から身体部位、道衣のたたみ方、帯の締め方、正座の仕方、礼の仕方、立ち方、突き、蹴り、受けを解説。今後、続編も予定しておりビデオも制作予定。英語とスウェーデン語の2ヶ国語版。(コリンズ師範は、現在スウェーデン在住)今年10月に行われた世界大会の来日でコリンズ師範本人が持参して来ました。海外の人は名前を漢字の当字にしたがりますが、コリンズ師範は「虎凜図」と道衣に入れてあります。コリンズ師範が約10年前に型の本を探しており、当連盟で「空手型全集」上・下 金澤弘和著 池田書店を紹介したことがありました。(Budoshopで販売中4500円)

41)八光流 昭和40年9月号 奥山吉治編集 八光塾本部  
[このページのTopにもどる](#)



八光流の機関誌。八光流は柔術の一流派で、護身術でもあり、指圧も兼ねている。宗家の奥山龍峰の時事放談と技術解説。政治、医学、指圧、皇道などの記事。漫画家の土家一平のイラストも載っている。又、三波春夫が歌う八光流のレコードや八光流オリジナルバックルもあり紹介。他の号で、宗家の著書や八光流バッジ、白扇、旗、漢方薬の紹介広告もある。A5版、全60ページ。八光流本部は埼玉県大宮にあり、二代目宗家に継がれている。当時から、通信教育もあり今でも行われている。現在、初代宗家の著書3冊が通販で入手可能。又、八光流のホームページもあります。

42)心技体 八光流宗家・奥山龍峰の世界 鶴新靖夫著



心技体 八光流宗家・奥山龍峰の世界 鶴新靖夫著 20世紀企画 昭和51年  
八光流と奥山龍峰宗家の紹介、評伝本。第1章 なにくそ魂・奥山龍峰の人となり、第2章 皇法指圧は万病を治す、第3章 八光流の精神と理念。巻末に全国の道場・教室一覧。評論家の著者が取材してまとめた一冊。新書版。ちょうど、10月23日発売の「フルコンタクトKARATE」誌で八光流の特集が記事になっています。

43)厳誠流空手道厳誠塾 技術教本 基本編  
厳誠塾技術局 2003年9月  
厳誠流空手道厳誠塾 第45回全国大会プログラム



2001年に当ホームページで紹介した「厳誠流空手道 厳誠塾型教本」に次ぐ、厳誠流空手2冊目の空手教則書。沖繩少林流の流れを受けてとの流派の説明があるが、立ち方、突き、蹴り、受けは首里手の流れを受けているものの独自の体系であることが分かる。立ち方では、前屈立ちの後ろ足爪先を真正面にしており、後屈立ちは実戦派空手の組手立ちに似ている。基本構えは、顔面と水月をガードするべく構える。突きの基本は、騎馬立ちによるもので引き突き、縦拳突きという独自の突きもある。後屈立ちからの逆突きが特に特徴があり体が半身になるほど突きを伸ばす。蹴り技では、猫足立ちスナップ前蹴り、廻し蹴りは後屈立ちから前足によるものとなっている。受けは、四つの掌底受けが独自である。手刀受けから貫手目突きという技もある。組手スタイルが素面による顔面攻撃、金的蹴りがあるので基本がそのように体系化されている。写真と簡単な説明による構成。全45ページ。A4版。全国大会は、年一回行われており、今年(2003年)は9月14日に長野県飯田市で行われた。現在、厳誠塾は伊藤徳治代表師範のもと活動されている。

44)琉球の唐手物語 石川文一著  
琉球文庫

昭和47年

[このページのTopにもどる](#)



10年に渡り探し続けた一冊がやっと入手できました。12項目にわたり、評伝と小説を混ぜて書かれている。「武士松村と与那嶺チルー、小林流と昭霊流、糸州のタンメーと猛牛、武士石嶺と玉那覇クエパー、八幡寺のフェーレー、剛柔流の開祖宮城長順、琉球武士と薩摩隼人、比嘉佑直恐怖の報酬、ハーリーの革武士国吉、上地流と中国の豪傑、血で染めた末角力、真壁チャーン小武勇伝」写真や図絵はなし。文庫かと思っていたが、四六版サイズ。沖縄にて入手。

45)太気拳の教え 岩間統正著

ゴマブックス 2003年11月 1400円

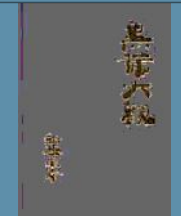


太気拳の第一人者である太気拳七段教士の岩間統正による初著作。太気拳の本や雑誌の特集、ビデオは多々でているが、澤井健一宗師を古くから知る著者でしか書けないことが述べられている。澤井健一宗師との出来事や学んだこと、太気拳の技術、武術論、著者の回顧録と盛り沢山の内容。最後の章では、写真で技の解説もある。

46)黒帯大鑑 新極真会

平成15年版 新極真会 5000円

[このページのTopにもどる](#)



緑健児代表の新極真会の有段者全員が載っている一冊。写真、氏名、段、空手歴、生年月日、身長・体重、住所(丁番号を除く)、職業、大会出場記録を網羅。支部ごとにまとめてあり、巻末にインデックス付。10月に行われた第8回世界大会で販売された。面白いのは最後にサインページが3ページある。毎年制作されるのであろうか。B5版・函付。

47)空手道禅道会 5周年記念パーティー

「無意識」の教育 小澤隆著 MCプレス  
平成15年11月 1800円

[このページのTopにもどる](#)



2003年11月16日、長野県岡谷市ジョイントプラザマリオにて「空手道禅道会 5周年記念パーティー」が行われました。NPO法人日本武道空手道連盟の師範達やマスコミ関係者、女子格闘家など多数の来賓が参列しました。小澤隆主席師範による空手界初のシャドーブロック割り(ストレート、フック、ミドルキック、ローキック)のオープニングから禅道会支部長達の紹介、武道会館による演武と寸劇があり盛況でした。又、このパーティーに合わせて発売された教育書の朗読もありました。青少年育成を目的とする空手団体は多々あるが、教育書を出版するのは希有である。空手指導と武道教育を通して青少年の犯罪、非行問題に取り組む著者の真摯な姿勢がうかがえる。家庭内暴力、引きこもりといった社会問題についても触れられている。コンテンツは、第1章・武道と教育、すべての始まり 第2章・突然の家庭内暴力、その裏に潜むもの 第3章・「無意識」と、いかに向き合うか。 第4章・「引きこもり」が見続ける劇 第5章・親の投影と子供の補償行為 第6章・教育とは「形」から入るもの 最終章・「親と子の微妙な距離、そして個人責任」と題するスポーツライターの小澤隆氏との対談もある。この記事は、「月刊 空手道」にも掲載されます。